

科目名 日常生活援助技術Ⅲ 時間割表記名 日常生活援助技術Ⅲ (排泄)(酸素・吸引)	配当時期 1年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	講義担当者 川野 友美 (実務経験のある教員) 隈部 直子 (実務経験のある教員)	
事前学習内容 演習前にはテキストの動画を視聴する。 技術演習前には、テキストと動画を活用し、技術の根拠を含めた手順をレポートにまとめる。			
授業目標 1. 人間の排泄の機能を理解したうえで、排泄に関わる援助技術が実践できる。 2. 酸素療法と吸引の必要性が理解でき、機器の取り扱いと援助が実践できる。			
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	排泄援助の基礎知識 1)排尿のアセスメント、排便のアセスメント 2)排泄行動のアセスメント 3)排泄援助の種類(自然排尿、自然排便の援助の種類) 排泄援助の基本 1)床上排泄の援助の方法と選択 (尿器・便器の介助、おむつ交換、ポータブルトイレ)	講義	テキスト①②資料
2 3	排泄の援助の実際 1)床上排泄の手順 2)床上排泄に適したポジショニング 3)尿器・便器のあて方 4)おむつのフィットのさせ方 5)ポータブルトイレへの移乗と姿勢保持 5)保温と羞恥心への配慮	演習(技術)	テキスト①②資料
4	排尿困難な対象への援助、排便困難な対象への援助 1)導尿の適応と援助時の留意点 (1)一時的導尿 (2)持続的導尿 2)浣腸と摘便の適応と援助時の留意点 (1)グリセリン浣腸 (2)摘便	講義	テキスト①②資料
5 6	排尿困難な対象への援助の実際① 1)一時的導尿の手順 2)清潔操作	演習(技術)	テキスト①②資料

	3)正しいカテーテル挿入と抜去の方法 4)保温と羞恥心への配慮		
7 8	排尿困難な対象への援助の実際② 1)持続的導尿の手順 2)清潔操作 3)正しいカテーテル挿入と固定方法 4)保温と羞恥心への配慮	演習(技術)	テキスト①②資料
9	排便困難な対象への援助の実際 1)グリセリン浣腸・摘便の手順 2)浣腸・摘便時のポジショニング 3)正しいチューブ挿入及び浣腸液の注入方法 4)保温と羞恥心への配慮	演習(技術)	テキスト①②資料
10 11	呼吸・循環を整えるための援助 1)酸素吸入療法の援助に必要な基礎知識 (1)援助の目的 (2)酸素投与器具の種類と特徴 (3)援助方法(中央配管方式・酸素ポンプ使用) 2)吸引の援助に必要な基礎知識 (1)援助の目的 (2)吸引の援助の適応と禁忌 (3)援助方法(口腔・鼻腔内・気管内吸引)	講義	テキスト①②資料 * 11 回目 45 分
12 13	酸素吸入療法及び吸引の援助の実際 1)中央配管方式の手順と留意点 2)酸素ポンプを用いた援助の手順と留意点 3)口腔内・鼻腔内吸引の手順と留意点 4)気管内吸引の手順と留意点	演習(技術)	テキスト①②資料
14	技術試験 持続的導尿(膀胱留置カテーテル)	試験(技術)	
15	筆記試験(45分)	試験(筆記)	
<p>受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○技術の習得に向けて各自で練習を行う。</li> <li>○看護機能形態学、基礎看護技術論、日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱの学習を活用する</li> </ul>			
<p>使用するテキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</li> <li>②看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①口から食べる幸せをサポートする包括的スキル 医学書院</li> <li>②系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院</li> <li>③看護形態機能学 第4版 日本看護協会出版会</li> </ul>			